

《案文》

令和2年 月 日

佐倉市教育委員会 様

佐倉市文化財審議会

委員長 濱島 正士

「宝樹院のサザンカ」の文化財指定について（答申）

令和元年5月29日付けで、佐倉市教育委員会から諮問のあった標記の件については、佐倉市指定文化財として指定するにふさわしい旨、別紙指定理由書を添え答申いたします。

## 宝樹院のサザンカ《案文》

1. 種 別 天然記念物
2. 名 称 宝樹院のサザンカ
3. 本 数 1本
4. 形 態 サザンカ巨木
5. 所 有 者（管理責任者） 宗教法人 宝樹院 住職 加藤 泰裕
6. 所 在 地 佐倉市上座 1041

### 7. 指定理由

宝樹院は、文和2年（1353）、「臼井家中興の祖」臼井城主臼井興胤公により建立された寺院で、境内に興胤公お手植えと伝えられるサザンカの古木がある。品種名は不明であるが、毎年、直径5cm前後の、薄いピンク色の花を、2か月以上にわたって多数、着ける。花卉は7枚前後あり、一重である。

この古木は、平成31年3月の調査時点で、幹周囲長は148cm（高さ1.4mの値）、樹高は4.9mに達していた。サザンカは、本来、亜高木性で、大木にならないのが普通であり、この大きさにまで成長しているのは珍しい。幹周囲長を、昭和51年発行の巨樹名木大事典に掲載されている全国のサザンカ巨樹リストと比べると全国第6位、環境省の巨樹・巨木林データベースと比べると第4位に相当する。いずれにしても、サザンカとしては巨木である。

樹冠は直径8mに達する広がりを持ち、剪定の結果、丸いドーム形を呈している。平成25年の台風で大きな枝が折れ、樹冠に欠損部が見られるが、依然として葉の着きは密である。一部、空洞化した幹内部を処置し、樹皮の日焼け防止と土壌改良によって、平成29年度から樹勢の回復を図っている。

正確な樹齢は不明であるが、300年には十分、達している可能性が高い。

以上のことから、本樹は、全国的にも珍しいサザンカの巨木であり、多数の美しい花を着ける名木としての価値も高く、佐倉市指定の天然記念物として保全する価値がある。